

ハイスピード オペレーションモード

- ・オペレーティングモード選択方法
F-mode ボタンを押すと、LED モードが点滅。
その後、F-mode ボタンを押し選択。
選択したモードは約 2 秒後に作動します。

F-mode ボタン

調光



周波数
ディスプレイ

ポテンション
メーター

■ 1000Hz,300Hz モード切替方法

Manモードを選択し、現在の周波数を確認
(300Hz又は1000Hz)。“MAN”のLEDランプが
点灯しているときにF-modeボタンを5秒以上
長押し。※出力周波数は、消灯時に選択していた周波数を維持し、
再点灯の際には、前回消灯した際の周波数が選択される。

立ち上がり後の選択可能な操作モード
立ち上がるまで約200秒かかります。

575/800
1200/1800

AUTO SCAN(オートスキャンモード)



F-modeボタンを押して“AUTO SCAN”モードを選択。
約 6 分ほどかけてスキャンサイクルします。
スキャンサイクル中周波数は、1000Hz/300Hzの
モード切替にて、

- ・ 1000Hz に設定 → 900~1200Hz } 間を検知。
- ・ 300Hz に設定 → 270~360Hz }

スキャン完了後、フリッカーが発生しにくい出力周波数が選択され
継続的に監視される(“AUTOSCAN”LED点灯)
スキャン完了後、周波数ポテンションメーターは使用できません。

調光 : AUTO SCAN 完了後、操作可能

注意 : AUTO SCAN 中にディマー操作をすると、スキャンが一旦停止し、
数秒後、AUTO SCAN が最初から開始されてしまいます。

AUTO MAN(オートマニュアルモード)

特定の周波数で固定し、その範囲内でフリッカーの発生が低い周波数を検知。



F-modeボタンを押して“AUTO MAN”モードを選択。
約 6 分ほどかけてスキャンサイクルします。
スキャンサイクル中周波数は、1000Hz/300Hzの
モード切替にて、

- ・ 1000Hz に設定 → 900~1200Hz } 間を検知。
- ・ 300Hz に設定 → 270~360Hz }

スキャン完了後、フリッカーが発生しにくい出力周波数が選択され
継続的に監視される(“AUTO MAN”LED点灯)
スキャン完了後、周波数ポテンションメーターは使用可能です。

調光 : AUTO SCAN 完了後、操作可能

注意 : AUTO SCAN 中にディマー操作をすると、スキャンが一旦停止し、
数秒後、AUTO SCAN が最初から開始されてしまいます。

注意書き裏面へ

AUTO SCAN/AUTO MAN モード スキャンに関する注意事項

必ずライティングが終わった後に、AUTO SCAN をしてください。

灯体が点灯している時、ランプ温度の上昇や灯体の角度変化が生じると、当初スキャンした状態から環境が変わるため、最適な周波数が変動し、フリッカー等の現象が起こる可能性があります。

- 例)
- ・ 振り角度などを変え、灯体を動かす
 - ・ 雨カバーなど、取り付けを行う
 - ・ スクリムを使用する 等

一度スキャンした後に、上記例のような作業を行った場合は、灯体の環境が変わるため、再度スキャンを行ってください。



ハイスピード オペレーションモード

- ・オペレーティングモード選択方法
F-mode ボタンを押すと、LED モードが点滅。
その後、F-mode ボタンを押し選択。
選択したモードは約 2 秒後に作動します。



- 1000Hz, 300Hz モード切替方法
Manモードを選択し、現在の周波数を確認
(300Hz又は1000Hz) LED 点滅時に
F-mode ボタンを 5 秒以上長押し。
※出力周波数は、消灯時に選択していた周波数を維持し、
再点灯の際には、前回消灯した際の周波数が選択される。

立ち上がり後の選択可能な操作モード

立ち上がるまで約200秒かかります。

12/18

AUTO SCAN(オートスキャンモード)



- F-modeボタンを押して“AUTO SCAN”モードを選択。
約 6 分ほどかけてスキャンサイクルします。
スキャンサイクル中周波数は、1000Hz/300Hzの
モード切替にて、
 - ・ 1000Hz に設定 → 900~1200Hz
 - ・ 300Hz に設定 → 270~360Hz間を検知。

スキャン完了後、フリッカーが発生しにくい出力周波数が選択され
継続的に監視される(“AUTOSCAN” LED点灯)
スキャン完了後、周波数ポテンションメーターは使用できません。

- 調光 : AUTO SCAN 完了後、操作可能
注意 : AUTO SCAN 中にディマー操作をすると、スキャンが一旦停止し、
数秒後、AUTO SCAN が最初から開始されてしまいます。

AUTO MAN(オートマニュアルモード)



- F-modeボタンを押して“AUTO MAN”モードを選択。
約 6 分ほどかけてスキャンサイクルします。
スキャンサイクル中周波数は、1000Hz/300Hzの
モード切替にて、
 - ・ 1000Hz に設定 → 900~1200Hz
 - ・ 300Hz に設定 → 270~360Hz間を検知。

スキャン完了後、フリッカーが発生しにくい出力周波数が選択され
継続的に監視される(“AUTO MAN” LED点灯)
スキャン完了後、周波数ポテンションメーターは使用可能です。

- 調光 : AUTO SCAN 完了後、操作可能
注意 : AUTO SCAN 中にディマー操作をすると、スキャンが一旦停止し、
数秒後、AUTO SCAN が最初から開始されてしまいます。

AUTO SCAN/AUTO MAN モード スキャンに関する注意事項

必ずライティングが終わった後に、AUTO SCAN をしてください。

灯体が点灯している時、ランプ温度の上昇や灯体の角度変化が生じると、当初スキャンした状態から環境が変わるため、最適な周波数が変動し、フリッカー等の現象が起こる可能性があります。

- 例)
- ・ 振り角度などを換え、灯体を動かす
 - ・ 雨カバーなど、取り付けを行う
 - ・ スクリムを使用する 等

一度スキャンした後に、上記例のような作業を行った場合は、灯体の環境が変わるため、再度スキャンを行ってください。



ハイスピード オペレーションモード

・オペレーティングモード選択方法
F-mode ボタンを押すと、LED モードが点滅。
その後、F-mode ボタンを押し選択。
選択したモードは約 2 秒後に作動します。



■ 1000Hz, 300Hz モード切替方法
Manモードを選択し、現在の周波数を確認
(300Hz又は1000Hz) LED 点滅時に
F-mode ボタンを 5 秒以上長押し。
※出力周波数は、消灯時に選択していた周波数を維持し、
再点灯の際には、前回消灯した際の周波数が選択される。

2.5/4

立ち上がり後の選択可能な操作モード
立ち上がるまで約200秒かかります。

AUTO SCAN(オートスキャンモード)



F-modeボタンを押して“AUTO SCAN”モードを選択。
約 6 分ほどかけてスキャンサイクルします。
スキャンサイクル中周波数は、1000Hz/300Hzの
モード切替にて、
・ 1000Hz に設定 → 900~1200Hz } 間を検知。
・ 300Hz に設定 → 270~360Hz }

スキャン完了後、フリッカーが発生しにくい出力周波数が選択され
継続的に監視される(“AUTOSCAN” LED 点灯)
スキャン完了後、周波数ポテンションメーターは使用できません。

調光 : AUTO SCAN 完了後、操作可能
注意 : AUTO SCAN 中にディマー操作をすると、スキャンが一旦停止し、
数秒後、AUTO SCAN が最初から開始されてしまいます。

AUTO MAN(オートマニュアルモード)



F-modeボタンを押して“AUTO MAN”モードを選択。
約 6 分ほどかけてスキャンサイクルします。
スキャンサイクル中周波数は、1000Hz/300Hzの
モード切替にて、
・ 1000Hz に設定 → 900~1200Hz } 間を検知。
・ 300Hz に設定 → 270~360Hz }

スキャン完了後、フリッカーが発生しにくい出力周波数が選択され
継続的に監視される(“AUTO MAN” LED 点灯)
スキャン完了後、周波数ポテンションメーターは使用可能です。

調光 : AUTO SCAN 完了後、操作可能
注意 : AUTO SCAN 中にディマー操作をすると、スキャンが一旦停止し、
数秒後、AUTO SCAN が最初から開始されてしまいます。

注意書き裏面へ

AUTO SCAN/AUTO MAN モード スキャンに関する注意事項

必ずライティングが終わった後に、AUTO SCAN をしてください。

灯体が点灯している時、ランプ温度の上昇や灯体の角度変化が生じると、当初スキャンした状態から環境が変わるため、最適な周波数が変動し、フリッカー等の現象が起こる可能性があります。

- 例)
- ・ 振り角度などを変え、灯体を動かす
 - ・ 雨カバーなど、取り付けを行う
 - ・ スクリムを使用する 等

一度スキャンした後に、上記例のような作業を行った場合は、灯体の環境が変わるため、再度スキャンを行ってください。



ハイスピード オペレーションモード

- ・オペレーティングモード選択方法
F-mode ボタンを押すと、LED モードが点滅。
その後、F-mode ボタンを押し選択。
選択したモードは約 2 秒後に作動します。

周波数
ディスプレイ

調光

F-mode ボタン

ポテンション
メーター

- 1000Hz,300Hz モード切替方法
Manモードを選択し、現在の周波数を確認
(300Hz又は1000Hz) LED 点滅時に
F-mode ボタンを 5 秒以上長押し。
※出力周波数は、消灯時に選択していた周波数を維持し、
再点灯の際には、前回消灯した際の周波数が選択される。

立ち上がり後の選択可能な操作モード

立ち上がるまで約200秒かかります。

6/9

AUTO SCAN(オートスキャンモード)



- F-modeボタンを押して“AUTO SCAN”モードを選択。
約 6 分ほどかけてスキャンサイクルします。
スキャンサイクル中周波数は、1000Hz/300Hzの
モード切替にて、
 - ・ 1000Hz に設定 → 900~1200Hz }間を検知。
 - ・ 300Hz に設定 → 270~360Hz }

スキャン完了後、フリッカーが発生しにくい出力周波数が選択され
継続的に監視される(“AUTOSCAN” LED点灯)
スキャン完了後、周波数ポテンションメーターは使用できません。

- 調光 : AUTO SCAN 完了後、操作可能
- 注意 : AUTO SCAN 中にディマー操作をすると、スキャンが一旦停止し、
数秒後、AUTO SCAN が最初から開始されてしまいます。

AUTO MAN(オートマニュアルモード)



- F-modeボタンを押して“AUTO MAN”モードを選択。
約 6 分ほどかけてスキャンサイクルします。
スキャンサイクル中周波数は、1000Hz/300Hzの
モード切替にて、
 - ・ 1000Hz に設定 → 900~1200Hz }間を検知。
 - ・ 300Hz に設定 → 270~360Hz }

スキャン完了後、フリッカーが発生しにくい出力周波数が選択され
継続的に監視される(“AUTO MAN” LED点灯)
スキャン完了後、周波数ポテンションメーターは使用可能です。

- 調光 : AUTO SCAN 完了後、操作可能
- 注意 : AUTO SCAN 中にディマー操作をすると、スキャンが一旦停止し、
数秒後、AUTO SCAN が最初から開始されてしまいます。

注意書き裏面へ

AUTO SCAN/AUTO MAN モード スキャンに関する注意事項

必ずライティングが終わった後に、AUTO SCAN をしてください。

灯体が点灯している時、ランプ温度の上昇や灯体の角度変化が生じると、当初スキャンした状態から環境が変わるため、最適な周波数が変動し、フリッカー等の現象が起こる可能性があります。

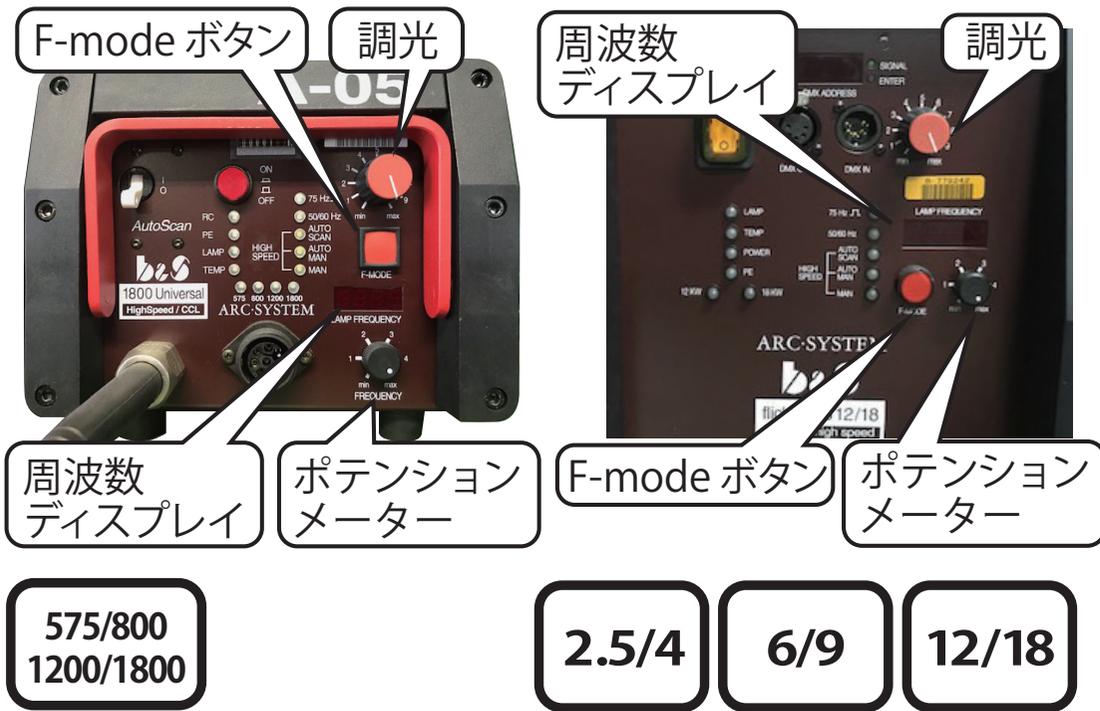
- 例)
- ・ 振り角度などを変え、灯体を動かす
 - ・ 雨カバーなど、取り付けを行う
 - ・ スクリムを使用する 等

一度スキャンした後に、上記例のような作業を行った場合は、灯体の環境が変わるため、再度スキャンを行ってください。



ハイスピード オペレーションモード

・オペレーティングモード選択方法
 F-mode ボタンを押すと、LED モードが点滅。
 その後、F-mode ボタンを押し選択。
 選択したモードは約 2 秒後に作動します。



■ 1000Hz, 300Hz モード切替方法

Manモードを選択し、現在の周波数を確認
 (300Hz又は1000Hz) LED 点滅時に
 F-mode ボタンを 5 秒以上長押し。

※出力周波数は、消灯時に選択していた周波数を維持し、
 再点灯の際には、前回消灯した際の周波数が選択される。

立ち上がり後の選択可能な操作モード
 立ち上がるまで約200秒かかりません。

AUTO SCAN



F-modeボタンを押して“AUTO SCAN”モードを選択。
 約 6 分ほどかけてスキャンサイクルします。
 スキャンサイクル中周波数は、1000Hz/300Hzのモード切替にて、

- ・ 1000Hz に設定 → 900~1200Hz
- ・ 300Hz に設定 → 270~360Hz

間を検知。
 スキャン完了後、フリッカーが発生しにくい出力周波数が
 選択され継続的に監視される(“AUTOSCAN” LED 点灯)
 スキャン完了後、周波数ポテンションメーターは使用できません。

調光：AUTO SCAN 完了後、操作可能
 注意：AUTO SCAN 中にディマー操作をすると、スキャンが一旦停止
 して、数秒後 AUTO SCAN が最初から開始されてしまいます。

AUTO MAN



特定の周波数で固定し、その範囲内でフリッカーの発生が低い周波数を検知。
 F-modeボタンを押して“AUTO MAN”モードを選択。
 約 6 分ほどかけてスキャンサイクルします。
 スキャンサイクル中周波数は、1000Hz/300Hzのモード切替にて、

- 1000Hz に設定 → 900~1200Hz
- 300Hz に設定 → 270~360Hz

間を検知。
 スキャン完了後、フリッカーが発生しにくい出力周波数が選択され
 継続的に監視される(“AUTO MAN” LED 点灯)
 スキャン完了後、周波数ポテンションメーターは使用可能です。

調光：AUTO SCAN 完了後、操作可能
 注意：AUTO SCAN 中にディマー操作をすると、スキャンが一旦停止し、
 数秒後、AUTO SCAN が最初から開始されてしまいます。

AUTO SCAN/AUTO MAN モード スキャンに関する注意事項

必ずライティングが終わった後に、AUTO SCAN をしてください。

灯体が点灯している時、ランプ温度の上昇や灯体の角度変化が生じると、当初スキャンした状態から環境が変わるため、最適な周波数が変動し、フリッカー等の現象が起こる可能性があります。

- 例)
- ・ 振り角度などを変え、灯体を動かす
 - ・ 雨カバーなど、取り付けを行う
 - ・ スクリムを使用する 等

一度スキャンした後に、上記例のような作業を行った場合は、灯体の環境が変わるため、再度スキャンを行ってください。

